

国際協力特別賞

世界中の人の幸せにつながる私の将来

熊本市立湖東中学校 1年
道本 ニコヤ

私は、六年生の秋に重い病気にかかり入院をした。入院は半年以上にわたる長いものだった。とてもつらい日々だった。しかし、つらい日々ではあったが、家族や友達、病院の人達にはげまされ、なんとか入院生活を乗りこえることが出来た。

入院生活中は様々な出会いがあった。その中でも印象的だったのは、医療支援でアフリカに派遣されたことがある看護師さんに出会ったことだ。彼女はとても優しい看護師さんだった。彼女をはじめとする病院の人達と接するうちに看護師さんやお医者さんがあこがれを持つようになった。

つらい入院生活ではあったが、この経験を通じて私は、将来の夢を見つけることが出来た。それは、医療関係の仕事につくという夢だ。医療のおかげで私は回復し、退院することもでき元の日常に戻ることが出来た。これほどの感謝の気持ちを今まで持ったことはなかった。私もだれかのために役に立てるよう、医療関係の仕事につくと決意した。

「だれか」のために役に立ちたいと考えたとき、その「だれか」の可能性はできるだけ多い方が良いと思う。

今私が、自分の入院でお世話になった人達に直接できることは、感謝の気持ちを伝える事ぐらいだ。しかし、将来私自身が「だれか」のために役に立つ人間になったら、それがいつかまわりまわっているいろいろな人を救うことにつながり、もしかしたらお世話になった人に返せるかもしれないと思う。それに私の将来の夢である医療の仕事は、身近な人達はもちろん、世界中の人達を救うことができるものである。入院生活で出会ったアフリカへ行ったことがある看護師さんから、それを教わった。その看護師さんはアフリカにはまだまだ困っている人がたくさんいると話していた。衛生環境や薬などの物資も日本と比べるとかなり厳しい状況にあるとも言っていた。

これから、私が本格的に進路を考えていく時に、自分がやりたいからとか自分が興味があるからといった自分の気持ちは大きい原動力となるはずだが、同時に自分の将来の仕事が世界の人の幸せにどうやったら役に立つ可能性があるか、という想像をしたり、助けを必要としている人達の心に寄りそうにはどうしたら良いかと思いをめぐらせたりすることも大切だと思う。

今の私は、ただの中学生で本当に小さい存在だ。できる事も限られている。しかし世の中の中学生みんなが私と同じように世界の人達の幸せを意識して将来を考えながら未来へ進んで行ったら、それはきっと大きな力となって多くの人のために役に立つと信じている。

今のこの気持ちをしっかりと胸に刻んで、これから一步ずつ未来へ進んでいこう。